

令和5年度 多文化共生先進取組事例「体験塾」in富山 実施報告(概要)

日時：令和5年11月9日(木)～10日(金)

参加者：地域国際化協会、自治体等より 14名

統括ファシリテーター：宮田氏(NGOダイバーシティとやま 代表理事)

柴垣氏(NGOダイバーシティとやま 事務局長)

研修の概要：

「外国ルーツを持つ人の活躍、外国ルーツを持つ子供の支援」

日本在住外国人が増加している現状を踏まえて、外国ルーツを持つ人の活躍、外国ルーツを持つ子供の支援に焦点を当て、富山県で開催しました。現在実施されている先進的な取組における外国人との共生、連携するノウハウについて学び、視察で得た知識を各自所属団体でどのように活かすか、ワークショップで掘り下げました。



人の多様性から外国人との共生を考える

体験塾 in 富山

「外国ルーツを持つ人の活躍、外国ルーツを持つ子供の支援」をテーマに、富山県(富山市、高岡市、射水市)における多文化共生の地域づくりの先進事例を学び、その学びを各参加者の地元でどのように活かすかをワークショップで掘り下げます。

日時 令和5年 11月9日(木)～11月10日(金)

対象 地域国際化協会、市市区町村国際交流協会、自治体の職員

定員 20人
定員を超えた場合は抽選とします。

参加費 無料
ただし、旅費・宿泊費(各自負担)、食費は各自で負担

募集期限 10月20日 金

応募はこちらへ



<http://trivari.com/toyomataken-sub>

多文化共生先進取組事例「体験塾」in富山 実施報告(概要)

行き先

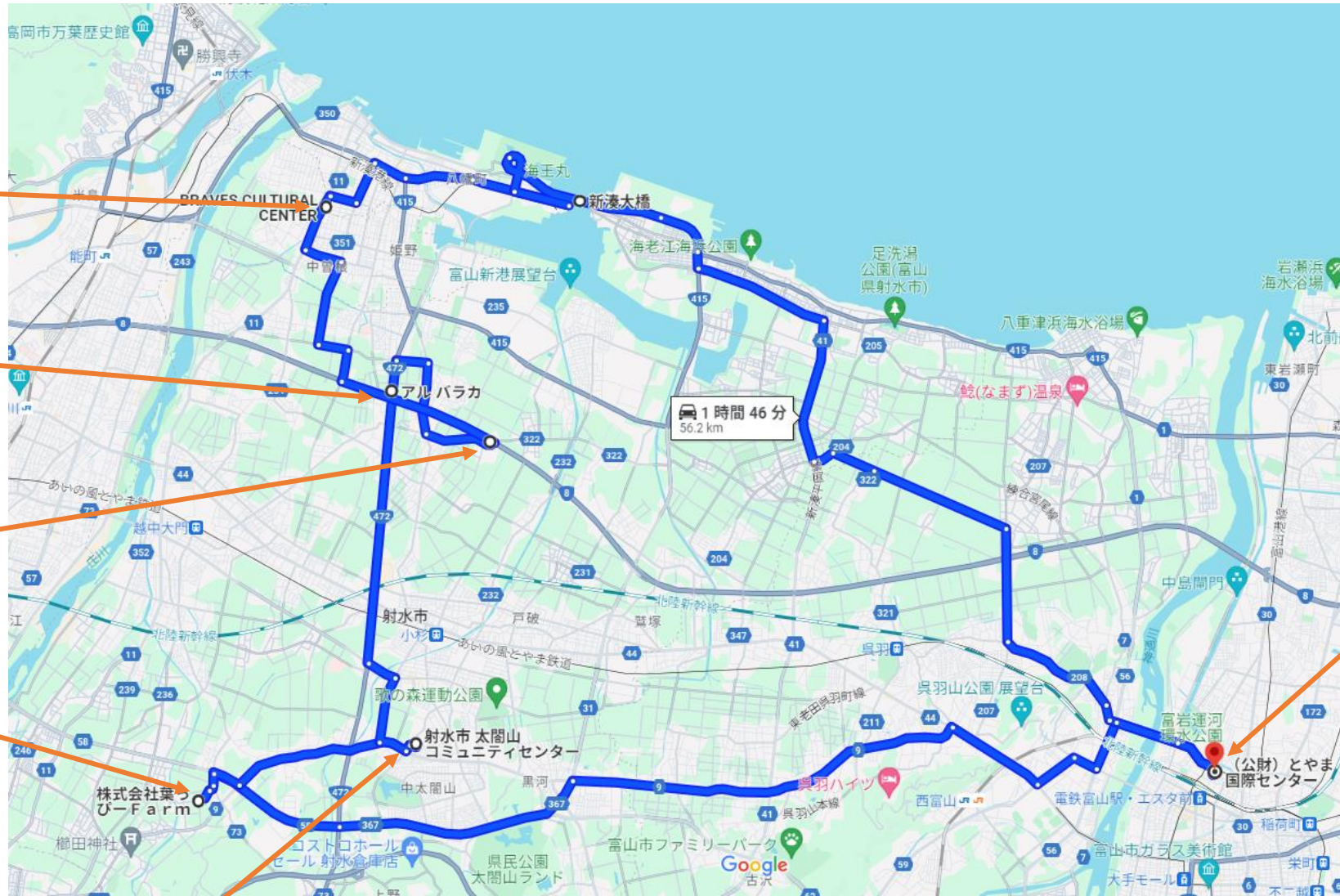
Braves

アルバラカ

富山モスク

葉っぱーFarm

多文化こどもサポートセンター



とやま国際センター

多文化共生先進取組事例「体験塾」in富山 実施報告(概要)

プログラム

1日目：11月9日(木)

■オリエンテーション

総括ファシリテーター宮田様、柴垣様から2日間の研修のポイントや、ネットワーク作りの大切さについてお話いただきました。

■コミュニティハウスひとのま

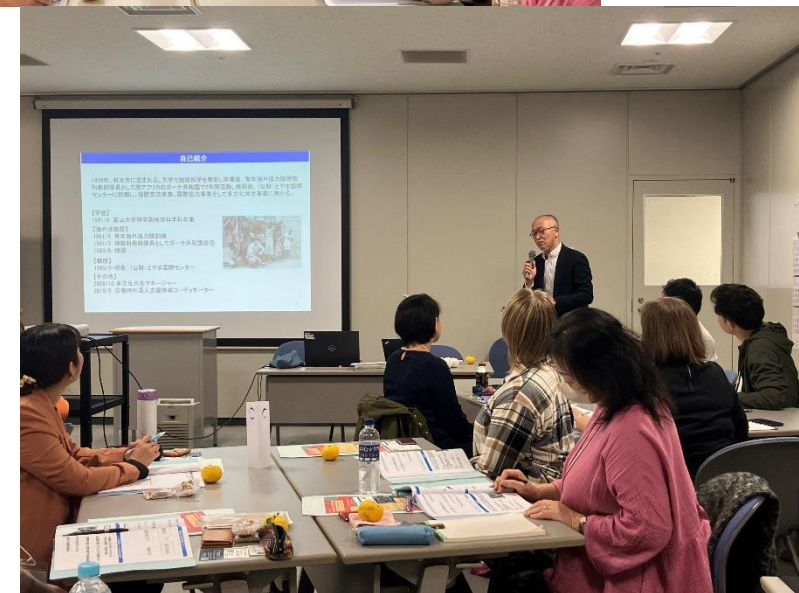
誰もが通えて、繋がり合える一軒家を運営し、外国人に限らず、不登校や引きこもりの子ども、発達障害や精神疾患などで就業困難な人、近所のおじいちゃんや学校帰りの中高生がふらっと立ち寄り一緒に過ごしている。そこから見えてくる人の多様性や共生について説明していただきました。

■(公財)とやま国際センター

富山県の外国人住民の現状やこれまでの取り組みのほか、外国人ワンストップ相談センターの開設、毎年開催している多文化共生フォーラムの開催などの多文化共生施策について紹介していただきました。



←
コミュニティハウス
ひとのまの事例発表



とやま国際センターによる、富山県の在留外国人の現況、↑
富山県外国人ワンストップ相談センターの開設等に関する講義

多文化共生先進取組事例「体験塾」in富山 実施報告（概要）

プログラム

1日目：11月9日（木）

■NGOダイバーシティとやま、富山国際学院

- ・ダイバーシティとやまは、設立のきっかけや、ダイバーシティの機運を醸成するためのイベントやフォーラムの開催などについて説明いただきました。
- ・富山国際学院は、開校時の多文化共生とは程遠い時代の苦勞や、留学生と地域との交流事業などについて説明いただきました。

■アレッセ高岡

富山県内の外国ルーツの子どもが置かれている現状、学習支援や多言語による教育情報支援の取り組み、学びの機会を増やすためプロジェクト等について説明していただきました。

■ワークショップ①

講義で学んだことについてグループで振り返り、ディスカッション等を通してそれぞれの地域で何ができるか考えるグループワークを行いました。



← NGOダイバーシティとやま、富山国際学院の取組の紹介



アレッセ高岡の教育情報支援の取組、富山県内の ↑ 外国ルーツの子どもが置かれている現状に関する講義

多文化共生先進取組事例「体験塾」in富山 実施報告（概要）

プログラム

2日目：11月10日（金）

■(株)葉っぱーFarm

- ・小松菜等を栽培、国内外に販路を持っていること、外国人として農業振興を頑張っていることについて説明いただきました。
- ・ラマ代表の母国であるネパールの曼荼羅の絵、ネパールで自社栽培しているエゴマ等をPRして、多文化共生を推進していると紹介いただきました。



←
葉っぱーFarmの
野菜栽培の見学

■多文化こどもサポートセンター

外国ルーツのある子どもたちのためにできた射水市の多文化共生こどもサポートセンターで、取組について説明いただきました。子どもたちは、学校の宿題、折り紙などの遊びや日本語の学習をしていると紹介いただきました。

■アルバラカ（インド・パキスタン料理）での昼食

富山モスクの視察前に、本場のインド・パキスタン料理をいただきました。カレーはあっさりしていてたくさん食べられて、とても美味しかったです。



多文化こどもサポート ↑
センターの視察、取組紹介

多文化共生先進取組事例「体験塾」in富山 実施報告（概要）

プログラム

2日目：11月10日（金）

■富山モスク

富山モスクの礼拝の見学をしました。富山県に住んでいるムスリム教徒（主にパキスタン人）の大切な場所になっています。毎週金曜日に心地よく祈れる場所があり、多文化共生に力を入れていることを感じました。

■Braves

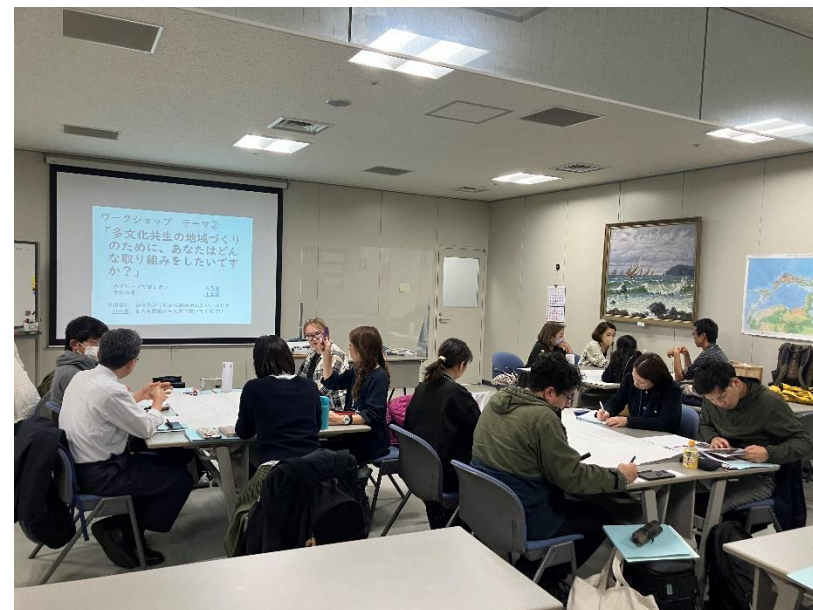
男女、民族、年齢問わず、だれでも来れるBraves Cultural Centerは2006年にオープンしました。柔術・ダンス教室、ネイルサロン、カフェ、ポルトガル語教室など様々な活動が行われています。外国人、特に日本在住のブラジル人の居場所、交流する場になっています。施設を開設した経緯等を紹介いただきました。

■ワークショップ②

2日間を通して、講義や訪問先の視察で学んだことについてグループで振り返り、ディスカッション等を通してそれぞれの地域で何ができるか考えるグループワークを行いました。



←
Bravesの視察、
施設の開設の
経緯等の紹介



とやま国際センターでのワークショップの様子 ↑

多文化共生先進取組事例「体験塾」in富山 実施報告（概要）

参加者の声

「体験塾」全般について

- ・視察も含めて企画いただきありがとうございます。富山の多文化共生について、たくさんの魅力ある方々から直接お話を聞き、大変勉強になりました。この数ヶ月で視点が偏っていたことに気づいたことが大きな収穫です。はじめの一步を忘れずに実行し、地域の多文化共生に取り組んでいきたいと思えます。
- ・大変中身の濃い盛りだくさんの内容で充実していた。研修開催頂いたクレアの皆様、ダイバーシティの宮田さん、柴垣さん、温かくご対応頂いた視察先や講師の皆様に心より感謝です！
- ・とても楽しかったです。立場は違っても想いは同じ人達から刺激を受けられたことは、今後のモチベーションに繋がります。
- ・リアル開催だと、隣り合ったことなどをきっかけに話ができるし、街で感じることもある（富山だとロシア語の案内があるんだ！など）ので、そういう機会が大切だなと改めて思いました。ありがとうございました。

学んだことの活かし方

- ・とにかくやってみるでいいんだということがわかったので、どんどんやっていきたいと思えます！
- ・外国ルーツの子どもたちの支援ネットワークを立ち上げる準備をしているので、同じ取り組みを行なっている仲間たちに情報共有を行います。
- ・地域の知らないことが多すぎるということを知りました。自分が「知る」地域の人に「知っていただく」をまずは取り組みたい。
- ・制約や決まりに捉われず、その地域に合う形で行って行きたいと思えます。具体的には子どもの支援について参考にさせていただきたい取り組み方をまず取り入れて行きたいと思えます。